

～博多『味の明太子ふくや』様 視察研修旅行～

＝1日目＝

■『ふくや』様企業視察

ふくや様の徹底された企業理念を学ぶ事ができました。
今年度のスローガンでもある『信念』を学ぶ事ができました。



■百年蔵

おいしいお酒ともつ鍋を囲んで
会員同士話が盛り上がりました。



■壇ノ浦

(みもすそ川公園・赤間神社)

台風の接近でお天気が心配でしたが、恵まれたお天気となりました。
下関の歴史、文化に触れ充実した研修を行う事ができました。



＝2日目＝

■唐戸市場

新鮮な海の幸も最高!!
お店の方とのやりとりも旅の思い出となりました。



■門司港レトロ地区

古い街並みを散策し、出光史料館で出光佐三の商売とは何かを歴史を追いながら学ぶ事ができました。



「日章丸事件から60年。」

浅野 信哉

5月例会のあいさつの際に紹介した「出光佐三」。土魂商才の経営者が商売を始めた地、生きた地を訪ねる旅ができたことに感謝しています。

戦争の影響で、日本中に1500万人もの失業者がいる中で日本への引揚者1000人に対しとても楽ではない経営状況の中「一人も社員の頸を切らない」そう宣言した佐三。佐三の名言として「社員は家族」何よりも「社員こそ会社の一番の資産である」と残されていますその信念を貫きとおした海賊に触れ、人は何のために働くのか、働くということは、に対する答えを考えさせられるよい機会になりました。

そうした過去の経営者のエネルギーに触れながら、現在の経営者の信念に深く感銘。今回の会社への訪問、講演に対し快く引き受けていただき、当日も経営に特に「人」に対する考え方を熱く語っていただいた株式会社ふくや代表取締役社長「川原正孝」。三方（仕入、小売、消費者）がすべて丸くおさまることを考えるのが経営者。

商売とは自社だけで成り立ってはいない、人として大切なことは人の喜びを自分の喜びとすること。経営者として深みのある語りに、ただ聞き入ることしかできませんでした。訪れる先方で感動をいただいた研修旅行に多くの仲間と参加でき感謝いたします。

旅行を遂行するにあたり、大変ご多忙の中、関わっていただきました皆様にお礼申し上げます。

また博多が好きになりました。ありがとうございました。

「茶柱のゆくえ」

大角 勇雄

百年蔵の如水をすっかり飲み干し、どうも官兵衛の術中に陥ったようだ。そのはず、中洲のクラブで「どんなにせがまれても姫に絶対飲ませてはならぬ」と決めた7人の口約が緩むまでに、入店後数分もかからなかった。それぞれが言分けを語りながら天神まで千鳥足。ようやく目的地の焼きラーメン発祥の屋台『小金ちゃん』に着く。普段は行列のこの店も、このときは運よく7人並んで座れた。

晴天の2日目。唐戸市場の鮮度の良い刺身に舌鼓を打つ。伊藤博文は日清講和条約締結のとき、その日がしめて「せっかく下関に来て、魚がないとはな」と毒舌をふるう。西鉄のありささんが、すぼめた指先を春帆楼に向けて、そうガイドしたあと破顔一笑した。

門司港レトロの出光美術館で、海賊佐三も愛した仙居の書画『一円相画賛（これ食うて茶のめ）』と出会う。その絵の中に、ふくやの川原社長の言われたあの茶柱が立っているの見えるようだ。

OJB修了の年に、私はどのように着地するかを考えていた。今回の研修旅行は、そうではなく、そこに留まることなくさらに前へ進めと教えてくれた。

「OJB現役最後の研修旅行。」

藤井 重雄

思えば初めての研修旅行の際、バスの中や温泉に浸かりながら先輩からOJBとの向き合い方や自社の取り組みをお聞きした貴重な時間は未だOJBに対する自らの立ち位置を定められなかった自分にとって漸く前向きに向き合う覚悟ができたきっかけとなりました。

(当然その時は会長まで務めるとは思いもしませんでした・・)

今回研修先である明太子の老舗ふくやの川原社長から頂いた「身の丈の経営、本物への探究心、社員へのサポート、そして地域貢献」は正に私の思うところであり、これからの自社の目指すべき金言と再認識しました。

新入会員の際、多くの先輩方から「研修旅行は可能な限り参加したほうが良い。他にはない特別な旅行だから。」と言われ、32年度入会より今回で15回目の参加となりました。唯一不参加となった35年度の口サンゼルス。今となっては参加できなかった事が悔やまれて仕方がありません。

共に同じものを食べ、夜の街を謳歌し、これからについて語り合う。今回の研修旅行も私にとって想い出深い貴重な経験となりました。

最後にこの素晴らしい旅行を執り行って頂いた会長はじめ役員の方々に感謝の意を表し結びとさせていただきます。

「盛者必衰」

渡部 弘幸

「祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり。沙羅双樹の花の色、盛者必衰の理をあらはす。おごれる人も久しからず、ただ春の夜の夢のごとし。たけき者も遂にはほろびぬ、ひとえに風の前の塵に同じ。……」

平家物語の冒頭部分です。八百数十年前の春暖のころ、壇ノ浦の戦いが行われた日は、どんな天候だったのでしょうか。

私たちが訪れた壇ノ浦は、透き通るような青い空と穏やかな碧い海、初夏の日差しが強く降り注ぎ、全てのものが輝いて見え、ゆるやかな潮の流れは安德帝と二位尼の入水が実際におこったこととは感じられませんでした。

宮本武蔵と佐々木小次郎の決闘の地 巖流島にも足を延ばしてみました。歴史口マンを多く感じる旅行となりました。

株ふくや川原先生、私も“運の良い人”になりたいと感じました。そして、自分の身の丈を大きくしたいとも思いました。ありがとうございました。

高橋克弥先輩、今年度も研修旅行にご一緒いただき、ありがとうございました。

浅野会長・高橋幹事長、大変素晴らしい旅をありがとうございました。夜ご一緒いただいた皆様、お世話になりました。ありがとうございました。同室の上野君、あなたの心配りに感謝します。ありがとうございました。出席者32名の皆様、ありがとうございました。

JTBの山下さん、笑顔をありがとうございました。

“盛者必衰”こころして研修していきたいものです。

「研修旅行に参加して」

羽田 義慎人

たかが一泊二日の旅行ですが「よし！行くぞ！！」と決めないとなかなか行けないものです。31年度（たしか）の旅行では飛行機でしたが今回は新幹線に揺られる事3時間半あまり、そして到着しました博多駅。あたりを観察する間もなくバスに乗り込みいざ「ふくや」へ出発。すぐ着いちゃいました。お弁当をいただき素敵な方の案内で工場見学をすませた後が今回のメイン、川原社長のご講演です。最初に目を疑ったのはその出で立ちでした。博多祇園山笠ならではのその装いは祭を愛し、文化を愛し、博多すべてを愛する男たちのプライドを凝縮したのがあの法被姿のような気がします。九州男児の息吹きを目の当たりに感じさせられました。法被姿の川原社長のご講演の内容からは感じられたのは土地を愛し、人を愛する事からすべてが始まるような「粋」が伝わってきました。私も郷土を愛し「粋」を伝えられるような人になりたいものです。

今年度の旅行を企画して下さった浅野会長はじめ多くの皆さまありがとうございました。



「ミツバチの夜」

平野 宏司

仕事の段取りの悪い僕はまたもや旅行に遅刻。せっかくの企業研修に間に合わず、日付がかわった頃ようやく現地入りしたのち、いつものメンバーにいつものごとくその日の出来事を教えて頂くことに。ふくやトップの情熱、努力、ビジネスセンスに始まり、夕食会場の百年蔵での盛り上がりについてまで、天神の屋台にて即席の勉強会。さらに場所を2〜3ヶ所かえ、最後のバーでワインを注文したのは夜も明けかけた頃。那珂川の夜景に臨む開放感あるカウンターと、ル・コルヴィジェ風ソファの並ぶその店の名は「Mitsubachi」。めいめいに飛び回っているようだが実は結束力の強いミツバチと同じ名。六角形の小部屋がいくつも並び、ひとつの集合体になるハチの巣のイメージが、OBJの仲間と重なった。すばらしい旅行を企画、開催された浅野会長、実務指揮官の高橋幹事長はじめ役員の皆様、そしてご一緒下さった会員皆様に感謝。



「黄金の奴隷たるなかれ」

松本 正平

商売の基本は、お客様の声に耳を傾けていること。使い古された言葉かもしれませんが、小売業から生まれた製造業ならではの顧客第一主義を九州の地で教えて頂きました。研修先の株式会社ふくやの川原社長しかり、「海賊と呼ばれた男」出光佐三しかり。いい意味でのアジアの活気をもった九州で、客との共同作業で商売を成立させている。その売買の場での情報を元に商品に活かす。そんな雰囲気、2日目の唐戸市場での「活いき馬関街」からも感じ取ることができました。そして二つの会社のもうひとつの共通点。出光佐三の言葉で言えば「黄金の奴隷たるなかれ」。利益ばかりを追求するのではなく、人の役に立つことで、商売が成り立っていくということ。これは目先の利益ばかり追ってしまう現代の風潮に警鐘を鳴らしてくれていると思います。いい研修させていただきました、ありがとうございました。

「現役最後の研修旅行」

栗田 和幸

思い起こせばOBJで最初に参加した時に行った研修先が福岡キャナルシティでした。31年でした、もう16年前です。キャナルシティが出来たばかりで視察先がここでした。研修したことは何も思い出せませんが、夜の先輩方の元気の良さに圧倒されたのを思い出します。先輩の中には行き帰りのみ一緒だった先輩も？そんな事を思い出しながら今回参加させて頂きました。明太子好きの私にとって「ふくや」さんの研修は非常に興味があるものでした。会社を訪問して従業員の方の笑顔・御もてなし、川原社長の講演を御聞きして業界トップの所以が理解できました。夜の中洲の街は非常に活気に溢れていました、これも川原社長の様な博多祇園山笠を愛する祭好きの気質が有るからでしょうか。私も時間を忘れ夜の博多を満喫させて頂きました。47年度の役員さん有難う御座いました。



(3)

「最高の旅行」

小倉 秀樹

川原社長のご講演では、経営者のやるべきことをご自身の体験の中から具体的に教えていただき、大変な励みになりました。また、先代社長のエピソードも驚くことばかりでした。器が大きいなあ……。質疑応答にも多くの時間をさいていただいた上、我々のバスが見えなくなるまで社員さんたちと手を振ってお見送り下さり、その温かい心遣いに感激致しました。また、夜の懇親会後に音楽好きのたまたま入ったミュージックバーは、親子3人の生演奏を行うアットホームなお店で、ディスコナンバー、ソウル、ジャズなど様々なリクエストに応じてもらい、本当に楽しい時を過ごすことができました。更に、偶然にもお店の経営者の方が川原社長の同級生であることがわかり、博多の夜の忘れられないエピソードになりました。今回、川原社長と出会い、みなさんとの交流を深めることもでき、有意義な時間となりました。会長、幹事長の行き届いた段取りで気持ちの良い最高の旅行になったと思います。ありがとうございました。

「研修旅行感想文」

長屋 是通

旅行好きな私ですが博多は一度しか行ったことがなく、前日は、わくわくしながら寝不足で参加させていただきました。まず会社訪問させていただいた『ふくや』様の工場に驚かされました。おそらく9割ぐらいが機械作業だろうという勝手な予測を履し、梱包や金属探知など以外は熟練された職人さんが、いくつもの工程にも及ぶ徹底した品質管理、またふくや様の美味しさの秘密である秘伝のたれは全従業員の名しかりレシピを知らない事でした。そこには川原社長の一切妥協を知らない姿勢を感じました。その後、強い信念を持たれ、会社経営をされておられる社長の講演にさらに心を打たれました。

夜の会食のお店も非常にスタイリッシュなお店でまた博多に出向いた際には利用をさせていただきます。翌日は、下関のレトロな街の散策をさせていただき、普段の荒々しい毎日から離れ、非常にリフレッシュをさせていただきました。

今回この旅行を企画していただいた、会長、幹事長、JTB山下様には非常に感謝いたしております。ありがとうございました。

「フクフク」

吉田 大助

浅野会長がユーモアの天才なことは知っていましたが、その効用について、ここまで深く感動したことは無かったと思います。

今回の旅行は現地のバスガイドさんがとても可愛い人でした。余談ですが、仕事に対する姿勢もよく、かつ、甘いもの好きということで、嫁にもraitたいと思ってしまいました。日清講和記念館の前で「伊藤博文公が春帆楼でふく料理を食されたのを契機にご禁制が解かれ、春帆楼がふく料理公許第一号の栄誉を担った」というガイド中に浅野会長の放ったユーモアにガイドさん笑いを堪えられず、場も和み。その直後の移動の際、「こんな楽しい団体さんは初めてです」って涙さえ浮かべる笑顔に、ユーモアの力を再認識したのでした。下関ではふくを福に通じるとしふくと呼ぶそうです。今回研修でお邪魔したふくや様は富久屋という屋号が由来だそうですが、何かその時代の背景にあるものといい、「福」にまつわるエトセトラを感じずにいられない旅となりました。

ハクハク展示の創業当時のふくや様の店頭を見学中、清水裕雅会員が見入っていた帳簿類。そこに会社経営の肝をみました。日々を大切に仕事をしていきたいです。

やっぱりOBJの旅行はいいですね。

「研修旅行に参加して」

川瀬 由香

以前からずっと訪ずれてみたかった街。博多！企画していただけた事にまず感謝いたします。

博多に憧れていた理由は、なぜか不思議なパワーの感じられる街だと思ったからです。足を踏み入れてみて、痛感！たくさんのパワーをいただきました。

まずは、ふくや様。食を提供する仕事の私にとっては、ハッ！とさせられるお言葉を川原社長のご講演で聴かせていただきました。"商品は名前ではない。味の良さ。常に味を変えていく。。。"変わらぬ味を保ちながら飽きられる事のない様に細やかな配慮をされる姿勢に背筋が伸びる思いでした。そして、夜の中州の地面から沸き上がるかの様なパワーに圧倒されました。屋台の並ぶあの雰囲気はたくさん元気をもらえた気がします。川原社長のお言葉通り、非日常的な事から生まれる感性が生まれた旅でした。

ありがとうございました。

「旅行感想文」

北野 英樹

出発前、ふと1年前の事を思い出していました。昨年の旅行では立場も違って気を使うばかりだったのですが、今年はただただ楽しめました。昼も夜も・・・です。

研修先のふくや様では社長のお話しをお聞きました。同じ製造小売業として経営理念など基本的な考え方は同じだなと思ったのですが、それを実行されているレベルが自分のところとは雲泥の差で、驚きました。ここまで出来るんだと大いに刺激を受けました。

今年も研修にもなり、会員との親睦も深められるOJBならではの旅行を満喫できました。会長、幹事長を始め役員の皆様、お疲れ様でした。楽しい研修旅行を本当にありがとうございました。

「研修旅行を終えて」

佐竹 紀皇

旅行当日は、台風の影響が心配されましたが、天候も回復し、とても気持ちのいい旅行となりました。今回の研修旅行の訪問先は、ふくや様ということで、楽しみにしていました。新幹線で博多に着いた後、ふくや様の4月に完成した新しい工場「ハクハク」で美味しい弁当をいただいた後、工場見学をさせていただきました。工場見学では、人の手による部分と機械による部分をはっきりと分かれていて、こだわりのある商品づくりをされているなど感じました。また川原社長の講演の中で、「社員が自ら学ぼうという気にさせるために、好きなことを学ばせて、その証として資格を取らせ、個々のモチベーションを上げさせる。」「社員に接客のノウハウを学ばせるために他店舗めぐりをさせている。社員によって、店の味まで変わることになる。」ということを知り、社員教育を大事にされているなど感じるとともに、ふくや様の社員は、どんな会社に行っても通用するだろうなと思いました。今回の研修旅行は、私にとって大変勉強になりました。ありがとうございました。

「博多の夜？」

加納 浩二

今回、博多への研修旅行に参加させていただきました。研修旅行へ参加させていただくのは久しぶりだったのでとても楽しく参加させてもらいました。

1日目の明太子の「ふくや」さんでは社長の長時間におよぶ講演を聴くことができ社長が先代から受け継いできた経営に関する考え方を教えていただくことができました。

2日目はとても盛りだくさんな内容で、唐戸市場でのお寿司門司港での焼きカレーとおいしいものばかりでした。

門司港では出光佐三氏の資料館もありここでも学ばせていただいた。とても楽しい旅行で企画いただいた浅野会長、高橋幹事長ありがとうございました。

ひとつ残念なことは晩御飯のあと早々に寝てしまったので博多の夜が全く楽しめなかったことです。またいつか行ってみたいと思います。



「OJB研修旅行」

安田 佑次

初日、株式会社ふくや様に川原社長より、ご講演を賜りました。経営に携わっておりますと、数字の利益だけを考えてしまいがちですが、川原社長のお話には、社員、地域、さらにはライバル会社の成長さえも自社の利益となる。また、「軍」進みて「運」となる。動くことにより運をつかむことができる。私自身非常に印象に残るお言葉で講演内容は、ただただ感銘を受けるばかりでした。川原社長ありがとうございました。

夕食には美味しいもつ鍋をいただき、屋台など非常に盛り上がりを見せる博多・中洲を、OJBらしく満喫をさせていただきました。

二日目には伊藤博文の明言？も飛び出し、あらためてOJB研修旅行の素晴らしさを感じる旅行となりました。

栗田先輩をはじめ、二日間ご一緒いただいた皆様、本当にありがとうございました。

「もう食べられません」

寸田 敬介

まずは、研修旅行で一緒にいただいた会員のみなさん、栗田一美特別会員には大変お世話になりました。初日の岐阜羽島駅で朝食にうどんを食べたのを皮切りに、研修先のふくやさんでは昼食に食べ放題明太子とお弁当をいただき、夜は百年蔵でもつ鍋と美味な冷酒をいただき、順調に中洲へと旅立ちました。中洲ではご一緒した方々の所用待ちにと閑散としたオイスターバーで牡蠣を食べずに休憩し、次は居酒屋で素敵な店員さんと戯れながら新鮮な魚料理を堪能し、所用を済ませた方々と合流後カラオケ店で色々交差し、締めは屋台のとんこつラーメンで喉を潤し即寝。二日目はホテルで朝食を済ませ、早めのお昼は唐戸市場でお寿司を1周、2周・・・と堪能し、門司で歩いてお腹にスキマができたので名物の焼きカレーを埋め込み、大垣到着後はとどめの中華を流し込みました。人生でこれほど食べまくった旅行は初めてです。浅野会長、素敵な研修旅行をありがとうございました。



「研修旅行を振り返って」

川瀬 知哉

今回の研修旅行では多くの貴重な体験ができ、多くの事を学ばせて頂ける大変有意義な研修旅行でした。

ふくや様の工場見学では、自動化できるところは機械で行い、検査などの特に重要な部分は人で行うというように、ムダが無く、衛生面でも非常に徹底された大変参考になる工場でした。川原社長様のご講演では、ふくや様の歴史を振り返りつつ、自社だけが良くなれば良いという考えではなく、業界全体が良くなるようにと願う企業姿勢は、私の考えに及ばなかった点であり、大変感銘致しました。また、ご講演の最後に自社を内側から見るだけでなく外側から見るように視点を変えると、今まで見えなかった点が良く見えるようになると話された事を参考に、即実践するようにしています。博多の夜は大変賑わしく、2日目は参加できませんでした。大変印象に残る、素晴らしい研修旅行に参加できたことに感謝しています。ありがとうございました。

「中洲のれんに灯が点る」

近沢 正

博多との別れの地となった小倉駅にてお土産を買う時の事。訪問させていただいた「味の明太子ふくや」の明太子を探したのですがどこにもない！そうです、「ふくや」の明太子は卸をしておらず直営店でしか購入できないのです。ほんの24時間前に講演にて聴講した内容がすっかり飛んでいたのは博多の夜があまりにも楽しかったからでしょうか。

2日目のお昼は唐戸市場へ、昼食にしては長い滞在時間が少々？でしたが、現地にてそんな疑問も氷解。市場内での食べ歩きに疲れたら海沿いのボードウォークで行む。前日の台風もどこへやらの快晴と爽やかな海風に時間の経つのを忘れたのでした。

素晴らしい研修旅行をどうもありがとうございました。

「研修旅行に参加して」

足立 貴保

今回の研修旅行では、会員の皆様との交流を深められ、福岡という土地の文化に触れることができ、また唐津市場でのコミュニケーションによる販売手法も、とても勉強になりました。

研修では、川原社長のお話を拝聴させていただき、特に印象に残ったのは、明太子を開発し、販売するとき、製法を広めて世の中に「明太子」という食べ物の存在を認知させたと言うお話です。自分の会社だけに利益があればよいという考えではなく、美味しいものを世の中に広めたいという社会貢献的な意義と、何よりも自社の商品に対する誇りと自信を感じました。「売るのも、買うのも「人」である。」

人と人とのコミュニケーションがとても重要で、社長のお母様が、相手の気持ちを慮り、お茶に茶柱を立ててお客様との良い関係を維持したお話は、とても素晴らしく、商売をする上で最も大切なことだと感じました。

貴重な経験をさせていただき有難うございました。

「素敵な撮影旅行」

田端 隆

今回の旅行はお役目で広報委員長をさせていただいている以上、ただ漫然と旅しているだけではないと思っていました。実際の撮影ポイント、外せない写真や場所等、田中副委員長と相談しながら会員の表情を追いかけました。

初日のふくや様では真剣に視察している皆の様子や川原社長の豊かな表情を撮影する事が出来ました。

夕食先での懇親が深まっている様子も田中副委員長が見事に収めてくれました。

翌日の観光では自由行動でバラバラになる中、プライベートショットを各地で撮影できました。

特にフェリーに乗って再度九州に上陸する際の皆の楽しそうな笑顔が印象的でした。

今回の旅行を実現して頂いた浅野会長初め皆様、本当にありがとうございました。



「研修旅行を終えて」

小川 智宏

今回の研修旅行では大変多くの事を学ばせていただける有意義な旅行でした。ふくや様の工場見学で感じた事は、先ず案内係りの女性がとても元気。我々からの質問に対しても明るく、時には冗談で返す姿には少々戸惑いを覚えたが、後に川原社長様から元気というワードが何度も出た事で納得した。正にお金の掛からないビジネスツールを見事にトップダウンされている。恐れ入りました。

また川原社長様のご講演で傾聴させていただいた『売り手よし、買い手よし、世間よし』近江商人の活動理念が印象に残ります。普段如何に商品を高く評価していただくかを考えている私にはとても衝撃的でした。

食では、憧れの博多もつ鍋、活かった白身のお造り、飲んだ後の屋台ラーメンに舌を包み、博多のうまかもんを堪能出来ました。次回は釣り竿を持って博多の地を訪れる事を誓います。

最後になりましたが、浅野会長、高橋幹事長をはじめ、2日間ご一緒してくださった皆様、本当に有難う御座いました。

やっぱりOJBの旅行はいいですね。

「明太子の歴史」

江森 正

今回、福岡・博多といえば、だれもが想像する明太子。その明太子を一番最初に作られた会社、ふくや様を訪問させていただき、川原社長様のご講演を拝聴させていただきました。明太子ができるまでには非常に歴史があり、苦勞されて出来たとうことがよくわかりました。そして苦勞されて作った明太子を、他社から欲しいとの要求にたいして一切卸しをすることなく、逆に自ら作りなさいと、製造方法等をすべて教えてしまう先代社長の行動には大変驚きました。他にまねをされても、他には出来ないような常に味の追求をされている姿にも見習うことが多くありました。しかしその判断があったからこそ、現在の1,500億円という明太子マーケットを作り出し、お互いに切磋琢磨していけるのだと思いました。改めて、世の中に無いものを生み出すには経営者としての判断力、人材育成について重要であることを研修させていただきました。川原社長、ふくや社員の皆様有難うございました。

「博多研修旅行を終えて」

奥田 祐太郎

今回博多に研修旅行に行くこととなり、行く前からわくわくしておりました。現在定期的に参加しているランチェスター経営のお膝元であり、またふくやという老舗でありNO1企業の視察、見学ができるという事で、この両者の接点である土地に行ける喜びを感じておりました。先ずふくやの川原社長の講演を拝聴し、まさに先代がやってきた事は、お客様との濃密な接触時間(量)であり、商品の質の向上とまさに経営の根幹であり基本的な戦略そのものでした。さらに川原社長そして博多の人達の情熱に感動しました。

自社の明太子はもちろん、業界そして博多の街への愛情、情熱こそが明太子を全国に知らしめ、ふくやをNO1にし博多の街を全国有数の観光地へと押し上げたのだと感じました。

それは山笠祭りや夜の屋台の活気でも感じることができました。自社や大垣の街のことを考えると本当にお手本となり、学ぶ事が多い旅行となりました。今回の旅行にご尽力された皆様にはたいへん感謝いたします。

「A, B, C」

大平 晃嗣

今回、初めてOJBの研修旅行に参加出来ました。最初に向かった明太子の元祖「味の明太子 ふくや」さんでは川原社長のご講演を賜りました。

ふくやさんの凄さは、創業者の川原俊夫氏の「A, B, C」(あたりまえのことを、ばかみたいに、ちゃんとやる)、明太子を独り占めしない器の大きさ(そのおかげで明太子が市場に広まった)、博多納税NO. 1(税金をきちんと払って雇用を守る)等のスピリットを真摯に受け止め、今でもきちんと実行し、その経営理念を社員一人一人に行渡らせている川原社長の信念の強さにあると感じました。

夕食は「博多 百年蔵」でもつ鍋を囲んでの懇親会。博多の人々に負けないくらい深夜まで飲んで元気に過ごした博多の夜がとてもいい経験になりました。

二日目以降も、会員同士の皆さんがとても和気あいあいとしていて、岐阜羽島駅に着くまで笑いが途切れることがない、色々刺激を受けた楽しい旅行でした。

ありがとうございました。

「研修旅行を終えて」

田中 真奈美

何事も実践、体験、信念が大切だなあと実感した貴重な研修旅行となりました。とても素敵な研修旅行を企画してくださった浅野会長、高橋幹事長、JTBの山下様ありがとうございました。

株式会社ふくや様川原正孝社長のご講演では、たくさんの事を教えていただけました。座右の銘とされてみえる『相手は自分の鏡である』という言葉は心に響きました。常に自分や会社を省みて第三者の目で見つめ直す事が大切であると考えの良い機会をいただけました。これからも仕事や地域を盛り上げる活動に信念を忘れないで取り組んでいこうと強く思いました。

また、ご一緒いただいた皆様。たくさんの笑顔がカメラに収める事ができました。お世話になり本当にありがとうございました。

出光史料館へは、次回訪れ、商売の真髄を学びたいと思います。ありがとうございました。

「業界として発展する為に」

上野 和幸

研修先である「ふくや」の川原正孝社長の御講演の中で一番印象に残ったのは、明太子という商品を独占せずに広く公開した事がよかった、というお話だった。結果、多数の業者が参入し、その事によって辛子明太子は福岡名物になれた、そうである。全くその通りであり、またその事を当たり前で自覚されている所に、川原社長、ひいてはふくやの企業としての聡明さを感じた。ただし、気をつけなければならないのは、およそ社会の全ての事象はケース・バイ・ケースだという事だ。敷居を下げて新規参入しやすいようにする事が発展する場合もあるし、一子相伝の伝統技術の様に、限られた人々の中で受け継がれていく事が、永く存続する秘訣、という場合もあるだろう。重要なのは、一つの考え方に固執する事なく、様々な事柄に柔軟に対応できるかだと思う。もっと厳しく言えば、社会はどんどん変容していくのに、自社や自分自身が変容していかなければ、自然淘汰されていくのは自明の理である。その事に改めて気付かされた研修旅行だった。

「はじめての博多旅行」

大倉 正路

はじめての博多旅行の初日は、明太子ふくやさんのサラリーマンから商売人になったお父さんの地盤もない、信用もない、ゼロからスタートをし今では売上げ100億以上。なみならぬ努力をしてみえたのだとひしひしと感じました。

同じ自営業として少し恥ずかしさを感じました。

二日目は、山口の唐戸市場。魚が好きな僕としては、最高の場所こんな場所が家のとなりになったら本気に思いました。北九州の魅力、一泊二日では、あまりにも短かったのですが、ぜひもう一度行ってみたい場所が出来ました。本当に心に残る最高の研修旅行になって良かったし、良い思い出が出来ました。

「元氣 博多、下関の旅」

北倉 拓也

1日目[ふくや]様での工場見学では衛生管理を中心とする徹底した品質管理を学ぶ事ができました。

その後の[ふくや]代表取締役 川原正孝様のご講演を頂きました。その中で私が一番に残ったことはとにかくお店、従業員が元気でいること、元気であればお客様がついてくるというお話でした。

そしてもう一つは同業者を大事にしなければいけないということ、[ふくや]様では明太子という商品を守るために同業者との団体を作りお互いをチェックしているというお話を頂きました。私も税理士会、TKC全国会と同業者団体に所属しています。今は、まだ業暦も浅く教えて頂くことの方が多いですが将来的には団体を引っ張っていきけるようになりたいと思いました。

2日目は下関、唐戸市場での楽しい昼食や門司港での散策など楽しい一日でした。出光創業者の出光佐三の記念館もあり大変勉強になりました。

「初めての研修旅行」

清水 裕雅

新入会員として初めての研修旅行に参加しました。今回の行先は「博多・下関」。初めて行く土地ということもあり、楽しみでした。実際に参加して、初日の「ふくや」の川原社長のお話も老舗でありながら、トップランナーである理由を聞いたような気がしましたし、博多・下関という街が、中国、韓国などからも近い立地であることから、歴史的にも、また現在においても国際色豊かな土地であることを体感してわかりました。貴重な体験ができたと思います。

「よかとー！」

栗田 一美

16年振りに福岡を訪問して、満喫感一杯で戻ってきました。特別な想いで参加させて戴きまして大変感謝しております。

現役31名の若き会員と交流を持つ事が出来るこの2日間は、自身何度味わっても『よかとー！』です。

勿論主旨である研修企業先『ふくや』様の川原社長の深い言葉『外から見つめ直すべし』は、公私ともに当て嵌まることで経営哲学の基本であると再認識いたしました。

毎回帰還してから、皆様への感謝の気持ちが心より湧き出て自身の活力の源となります。

最後にOJB及びツアー関係者の方々に改めて『お礼』申し上げます。又、お見事でした。

